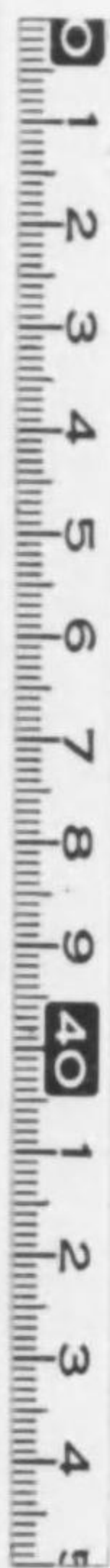


求古行書指針

306

85



始





求古行書指針

阮三藏聖教序



306  
85





求古行書指針

臨三藏聖教序







大  
唐  
三  
藏  
聖  
教



序

太宗文

皇帝製

弘福寺



沙門懷

仁集晉

右將軍

王羲之



書

蓋聞二

儀有像

顯覆載



以合生

四時無

形潛寒

暑以化





物

是

以

窺

天

鑑

地

痛

愚

皆  
識

其



端  
明  
陰

洞  
陽  
實

招  
罕  
窮

其  
數  
然



而天地

苞乎陰

陽而易  
識者以



其有像

也陰陽

雷乎天

地而雜



窮者以

其無形

也故知

像顯可



激  
耀  
愚

不  
惑  
形

潛  
莫  
覩

在  
智  
獨



蓬  
况  
牙

佛  
道  
崇

虚  
乘  
幽

控  
穿  
弘



濟  
方  
品

典  
御  
十

方  
舉  
威

靈  
而  
無



上抑神

力而無

下大之

則弥於



穿宇宙  
細

之則攝

於真象  
釋塵

無滅  
無



生應千

劫而不

古若隱若顯

運百福而長

今妙道凝玄



遵之莫知其  
際法流湛寂  
挹之莫測其

源故知秦之

凡愚區之庸

鄙投其旨趣



能無疑惑或者  
哉然則大教  
之興基乎西

土騰漢遶而  
敗夢照東域  
而流慈者者



分形分跡之

時之來馳而

成化者常現

之世民仰德

而知遵及乎

晦影歸真遷



儀越世金容  
掩色不鏡三  
千之光麗象

開箇空端四  
心之相於是  
激之廣被極



含類於三途  
遺訓遊宣導  
羣生於十地

然而真教難  
仰莫能一其  
旨歸曲學易



遵耶正於焉

紕所以空

有立論或習

俗而是非大

小之乘乍訟

時而隆替有



玄奘法師者  
法門之領袖  
也。勇懷貞敏  
早悟三空之  
心。長契神情  
先。慧。四。忍。之。



行松風水月  
未足比其清  
華仙露明珠

誰能方其朗  
潤故以智通  
無累神測未



形超六塵而  
迥出隻千古  
而無對凝心

內境悲正法  
之陵遲搖震  
玄門慨深文



之訛謬思歛  
分條析理廣  
彼前聞截偽

續真聞茲後學  
是以翹心淨志  
法遊西域乘危  
遠邁杖策孤心



積雪晨飛途間  
失地驚砂夕起  
空外迷天萬里  
山川撥煙霞而

進影百重寒暑  
躡霜雨而前蹤  
誠重芳徑求深  
砥達周遊西宇



十有七年竅歷  
道邦詢求正教  
雙林八水味道  
滄風鹿苑鸞峯

瞻竒仰異承至  
之於先聖受真  
教於上賢探贖  
妙門精竅與業



一乘五津之道  
馳驅於心田  
藏三篋之文  
波濤於口海  
爰自

所歷之國  
總將  
三藏要文  
凡六  
百五十七部  
譯  
布中夏  
宣揚  
勝



業引慈雲於西  
極注法雨於東  
垂聖教缺而復  
全蒼生罪而還  
福濕火宅之乾  
燄共拔迷途朗  
愛水之昏波同  
臻彼岸是知忘



因業墜墜至苦以緣  
昇之墜之端惟  
人所託解云夫桂  
生高嶺雲露方

得泣其花蓮出  
流波飛塵不能  
汙其葉非蓮性  
自潔而桂質本



真良由所附者  
高則微物不能  
累所憑者淨則  
濁類不能沾矣

以卉木無知猶  
資善而成善况  
乎人倫有識不  
緣度而求度方



翼茲經流施將  
日月而無窮斯  
福遊敷與乾坤  
而永大

朕才謝珪璋之  
慙博達至於內  
典尤所未闕昨  
製序文深為鄙



拙唯恐穢翰墨  
於金簡標凡礫  
於珠林忽待來  
書潔承褒讚  
備

躬省慮弥益厚  
頽善不足稱空  
勞致謝  
皇帝在春宮述



三藏

聖記

夫顯揚正教非  
智無以廣其文

崇闡微之此賢

莫能定其旨蓋

真如聖教者法

法之玄宗衆經



之軌躡也綜括  
宏遠與旨邈深  
極空有之精微  
體生滅之機要  
詞茂道曠尋之  
者不究其源文  
顯義幽履之者  
莫測其際故知



聖慈所被業無  
善而不臻妙化  
所敷緣無惡而  
不剪開法網之

經紀弘六度之  
正教拯羣有之  
塗炭啓三藏之  
秘扁是以名無



翼而長飛道道無  
根而永固道名  
流度歷遂古而  
鎮常赴感應身

經塵劫而不朽  
晨鍾夕梵交二  
音於鸞鷲峯慧日  
法流轉雙輪於



鹿苑排空寶蓋  
接翔雲而共飛  
莊野春林與天  
花而合彩仗惟

皇帝陛下  
玄資福垂拱而  
治以荒德被黔  
黎斂狂而朝萬



國息加朽骨石  
室歸貝葉之文  
澤及昆蟲金匱  
流梵說之偈遂

使阿耨達水通  
神旬之心川者  
閻嶽山接嵩華  
之翠嶺竊以法



性凝寂靡歸心  
而不通智地玄  
奧感懇誠而遂  
顯豈謂重昏之

夜燭慧炬之光火空之  
朝降法雨之澤於是百  
川異流同會於海万區  
分義總成乎寶豈与湯  
武校其優劣堯舜比其  
聖德者哉玄奘法師者



夙懷聰令立志夷簡神  
清豁亂之年體拔浮華  
之世凝情定室區迹幽  
巖拙息三禪巡遊十地  
超六塵之境獨步迦維  
會一乘之旨隨機化物  
以中華之無質尋印度  
之真文遠涉恒河終期滿  
字頻登雪嶺更獲半珠  
問道法還十有七載備  
通擇典利物為心以真  
觀十九年二月六日奉



勅於弘福寺翻譯聖教  
要文凡六百五十七部  
引大海之法流洗塵勞  
而不竭傳智燈之長燄  
皎幽闇而恆明自非久  
植勝緣何以顯揚斯旨

所謂法相常住齊三光  
之明我皇福臻同二  
儀之固伏見御製衆經  
論序照古騰今理含金  
石之聲文抱風雲之潤  
治輒以輕塵岳墜露



八十六  
添流略舉大經以為斯  
記

治素無寸學性不聰敏  
內典法文殊未觀攬所  
作論序鄙拙尤繁忽見  
來書褒揚讚述揆躬自  
省慙悚交并勞師等遠  
臻深以為愧

貞觀廿二年八月三日  
內出

戊寅九月 史臣 臨





## 王右軍聖教序解説

この聖教序は、僧の懷仁が王右軍の書を集字したものである。即ち王羲之の行書を最も多く、最も多く萃められたものである。而かもその鐫刻頗る精緻を極め、よく羲之の形貌を傳へてゐる。興福寺斷碑、蘭亭叙とともに、行書研究の規範といつても過言ではない。

石は三十行、行八十餘字、字數實に一千九百有二字、これだけ同大の文字を集字するには實に並々ならぬ苦心のあつた事を想像し得る。従つて中には、扁と旁とを組み合せたり、上部と下部を組み合せて、一字を形成したのも多數あることは注意して置かねばならぬ。又あるものは懷仁が、右軍の筆意にならつて書き足したのもあるといふ説もある位である。全體の脈絡、一個一個の文字については、幾分の批議はまぬがれないのは、集字の悲しさである。

碑首には頗る細緻な七佛像を刻してあるから又七佛聖教の名稱がある。原石は、紹興二年に斷じたとも云ひ、或は、天順年間とも云ひ、或は嘉靖年間に斷じたとも云はれてゐる。後世になつて、原石は斷折したものである。未斷本を以つて世に宋拓本と稱せられてゐる。碑中の糺紛の二字微かに裂紋あり、何以の二字略缺壞あり、内出々の字全泐すと雖も、其の下半稍形迹を見、其餘は俱に完全なるものを以つて、宋拓本の上乗とされてゐる。聖慈々の字、右上方が未だ缺けず、第二十六行目の故字未損なるものは宋拓にして前者に次ぐものとなされてゐる。石已に斷じ、三奥の文字未損、故字未だ全泐せざれば、明拓本である。最近の拓本は、五行目の被拯の二字、神清々の文字、第二十八行目の高陽縣の三字、末行の文林郎の三字皆磨泐してゐる。若し、以上の諸字がまだ盡く磨泐して居ないならば、清朝の初めの拓本である。

有名な帖であるだけ、翻刻本も頗る多く、一寸原拓と判別のつき兼ねるが如きものもある。而し又複製甚だ粗略にして、全く眞を失するものも頗る多い。研究者としては充分細別することが肝要である。今日世に重んぜらるる宋拓本には三者ある。

三井聰水閣の秘藏になる天下第一本聖教序、崇藏墨寶人間第一本聖教序、博文堂より出版されてゐる宋拓聖教序これである。博文堂本と人間第一本とは類似の法帖で、磨泐稍多く、鋒芒が少し、明かではないが、多肉にして和潤、頗る古意に富み精采の多いものである。

三井本は、頗る精拓にして、鋒芒瞭然として、遒勁の筆致のあらはれた法帖である。本大觀に輯録せるは、前者の人間第一本聖教序である。



王右軍大唐三藏聖教序釋文

太宗文皇帝製

弘福寺沙門懷仁集晉右將軍王羲之書

蓋聞二儀日月有象顯覆載天地以含生四時無形潛寒暑以化物是以窺天鑿地庸愚皆識其端明陰洞陽(通の假)賢哲罕希の假窮其數然而天地苞乎陰陽而易識者以其有象也陰陽處乎天地而難窮者以其無形也故知象顯可徵雖愚不惑形潛莫觀在智猶迷況乎道崇虛乘幽控寂弘濟萬品典御十方舉威靈而無上仰神力而無下大之則彌於宇宙細之則攝於毫釐無滅無生歷千劫而不古若隱若顯運百福而長今妙道凝玄遠之莫知其際法流湛寂挹之莫測其源故知蠢々凡愚區々庸鄙投其旨趣能無疑惑者哉然則大教之興基乎西土騰漢庭而皎夢照東域而流慈昔者分形分蹟之時言未馳成化當常現常之世人民の字を人に作る仰德而知遵及乎晦影歸真遷儀越世金容掩色不鏡三千之光麗象開圖空端四八之相於是微言廣被括含類於三途遺訓遐宣導羣生於十地然而真教難仰莫能一其指歸曲學易違邪正於焉紛糾所以空有之論或習俗而是非大小之乘乍沿時而陸替有玄奘法師者法門之領袖也幼懷貞敏早悟三空之心長契神情先苞四忍之行松風水月未足比其清華仙露明珠詎能方其朗潤故以智通無累神測未形超六塵而迥出隻千古而無對凝心內境悲正法之陵遲栖慮玄門慨深文之訛謬思欲分條析理廣彼前聞截偽續真開茲後學是以懇心淨土往遊西域乘危遠邁杖策孤征積雪晨飛塗間失地驚砂夕起空外迷天萬里山川撥煙霞而進影百重寒暑躡霜雨而前蹤誠重勞輕求深願遠周遊西字十有七年窮歷道邦詢求正教雙林八水味道食風鹿苑鷲峯瞻奇仰異承至言於先聖受真教於上賢探蹟妙門精窮奧業一乘五律之道馳驟於心田八藏三寶之文波濤於口海爰自所歷之邦懇將三藏要文凡六百五十七部譯布中夏宣揚勝業引慈雲於西極注法雨於東垂(陸)睡も同じ聖教缺而復全蒼生罪而還福濕火宅之乾饑共拔迷途朝愛水之昏波同臻彼岸是知惡因業墜善以緣昇昇墜之端惟人所託譬夫桂生高嶺雲霧方得滋其花蓮出綠波飛塵不能汚其葉非蓮性自潔而桂質本貞良由所附者高則微物不能累所憑者淨則濁類不能濡夫以并木無知猶查善而成善况乎人倫有識不緣慶而求慶

方冀茲經流施將日月而無窮斯福遐敷與乾坤而永大

朕才謝(讓)の假珪璋言敷博達至於內典(佛)教尤所未聞(習)昨製序文深爲鄙拙唯恐穢翰墨於金簡標瓦礫於珠林忽得來書謬承爽議循躬省慮彌益厚顏善不足稱空勞致謝

皇帝在春宮述三藏

聖記

夫顯揚正教非智無以廣其文崇闡微言非賢莫能定其旨蓋真如聖教者諸法之玄宗衆經之軌範也綜括宏遠奧旨遐深極空有之精微體生滅之機要詞茂道曠尋之者不究其源文顯義幽理治を諱みて理となす之者莫測其際故智聖慈所被業無善而不臻妙化所敷緣無惡而不翦剪と同じ開法網之綱紀弘六度之正教拯羣有之塗炭啓三藏秘扁是以名無翼而長飛道無根而永固道名流慶歷遂古而鎮常赴感應身經塵劫而不朽晨鐘夕梵交二音於鸞峯慧日法流轉雙輪於鹿苑排空寶蓋接翔雲而共飛莊野春林與天地而合彩伏惟皇帝陛下上資玄福垂拱而治八荒德被黔黎欲祀而朝萬國恩加朽骨石室歸貝葉之文澤及昆蟲金匱流梵說之偈遂使阿耨達水通神甸之八川者闡彌山接嵩華之翠嶺竊以法性凝寂靡歸心而不通智地玄奧感懇誠而逢顯豈謂重昏之夜燭慧炬之光火宅之朝降法雨之律於是百川異流同會於海萬區分義愆成乎實豈與湯武技其優劣堯舜比其聖德者哉玄奘法師者夙懷聽令立法夷簡神清韶亂之年體授浮華之世凝精定室匿跡幽巖栖息三禪巡遊十地超六塵之境獨步伽維會一乘之旨隨機化物以中華之無質尋印度之真文遠涉恒河終期滿字頻登雪嶺更獲半珠問道往還十有七載備通釋典利物爲心以貞觀十九年二月六日奉勅於弘福寺翻譯聖教要文凡六百五十七部引大海之法流洗塵勞而不竭傳智燈之長燄皎幽音而恒明自非久植勝緣何以顯揚斯旨所謂法相常住齊三光之明我皇福臻同二儀之固伏見御製集經論序照古騰今理含金石之聲文抱風雲之潤治高宗の名輒以輕塵足繼塵露添流畧舉大綱以爲斯記

唐高宗踐苔

治(高)宗の諱(素)蕪才學情不聰敏內典諸文珠未觀攬覽の假所作論序鄙拙尤繁忽見來書褒揚讚述撫躬自省慙悚交并勞師等遠臻深以爲愧

貞觀廿二年八月三日內出





有所權版

昭和十三年十二月五日印刷  
昭和十三年十二月十日發行

求古行書指針  
定價金貳圓

書者 寧樂書道會長 辻本史邑  
編輯者 大坂市南區東清水町二九  
發行所 大坂市南區東清水町二九  
發行所 大坂市南區東清水町二九  
發行所 大坂市南區東清水町二九  
發行所 大坂市南區東清水町二九

寧樂書道會長 辻本史邑先生監修

# 昭和 新選 碑法帖大觀

既刊三十四冊

各冊三十三頁五、横十九頁  
オフセット印刷、唐本仕立  
定價各一圓三十錢

郵送料 各九錢

## 發行趣旨

書道の研究が三千年來の古碑法帖を對照してなされる、所に其の意義と價値の生ずることは、論を俟たぬ所である。

然るにこれが名碑法帖を選擇入手することは頗る困難である。本會は早くより此の點に着目し之が刊行を見るならば、普く同好の士を益すること甚大ならんことを、に本書刊行の意を決し、營利を度外視して一切の犠牲を拂ひ、最も精選されたる基本的碑法帖百種を精印して「昭和碑法帖大觀」と題し昭和九年本會長辻本史邑監修のもとに着々計畫を進め、翌十年二月、其の第一卷の刊行を見る、爾來卷を重ねること三十四、其の眞價愈々あらはれ、今や絶贊の嵐を呼びつゝ、あり、乞ふ！書道愛好の士は、せひ机上一本を備へられんことを！！

## 第一輯

自一卷 全卷完結・各卷左の通り  
至十二卷

第一卷 九成宮醜泉銘(楷) 海内第一と稱せられる唐拓本を精印す。

第二卷 興福寺斷碑(行) 山本寬山藏經閣の舊拓本を精印す。

第三卷 張金界本蘭亭(秋碧堂本) 神龜年印本蘭亭

第四卷 孟法遷碑(隸) 山本寬山藏經閣の舊拓本を精印す。

第五卷 王右軍草書帖(草) 唐拓本の一つとして海内孤本と稱せられるもの。

第五卷 王右軍草書帖(草) 唐拓本の一つとして海内孤本と稱せられるもの。唐拓本に刻されたる右軍の草書中、代表的のもの即ち淨化、澄澗、輪滑、快雪、黃賓雲の諸帖より精選輯録す。







306  
85

## 現出の文字千の好愛家研究道書

辻本史也先生書 (美濃版和綴表紙附・行・草三冊收入)

**三體千字文**

豪華版

定價 金六圓 送料 金三十錢  
本書は普通研究家の爲豪華版として出版せるもので習字研究家になくしてはならぬ名書である。

辻本史也先生書 (美濃版和綴表紙附入一冊)

**楷書千字文**

豪華版

定價 金二圓 送料 金十四錢  
本書は習字研究家の爲特に豪華版の楷書篇を分冊として使用者の便を圖りて出版せるものである。

辻本史也先生書 (美濃版和綴表紙附入)

**行書千字文**

豪華版

定價 金二圓 送料 金十四錢  
本書は習字研究家の爲特に豪華版の行書篇を分冊として使用者の便を圖りて出版せるものである。

辻本史也先生書 (美濃版和綴表紙附入)

**草書千字文**

豪華版

定價 金二圓 送料 金十四錢  
本書は習字研究家の爲特に豪華版の草書篇を分冊として使用者の便を圖りて出版せるものである。

辻本史也先生書 (大巾紙和綴用表紙上下二冊)

**三體千字文**

普及版

定價 金二圓五十錢 送料 金十四錢  
本書は豪華版を簡版となし三體を纏め一般書道愛好家の爲に習字普及を圖り出版したものである。

辻本史也先生書 (美濃版和綴表紙附入)

**篆書千字文**

豪華版

定價 金二圓 送料 金十錢  
篆書千字文は其體数に少きをなげき辻本先生が普通研究家の爲に編纂されたものである。書道の妙を知るものななくてはならぬ名書である。

辻本史也先生書 (美濃版和綴表紙附入)

**隸書千字文**

豪華版

定價 金二圓 送料 金十錢  
本書は普通研究家の爲に辻本先生が編纂されたものである。書に類の少きだけ研究家には必要なものであるから是非一本を備へられんことを希む。

辻本史也先生書 (美濃版和綴表紙附入)

**五體千字文**

豪華版

定價 金二圓五十錢 送料 金十四錢  
本書は、篆、隸、行、草の五體を並立して辻本先生が編纂されたものである。書風の雄渾と筆意の美しきことは他に類を見ないので書道研究家には必携の良書である。

店書堂々暖

九二町水清區南市阪大  
春五三〇一區大座口管張

所行發



終